

2026年3月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年11月12日

上場会社名 オリオンビール株式会社
コード番号 409A

上場取引所 東

URL <https://www.orionbeer.co.jp>

代表者（役職名） 代表取締役社長（氏名） 村野 一
問合せ先責任者（役職名） 執行役員副社長（氏名） 亀田 浩（TEL）098(911)5232
半期報告書提出予定日 2025年11月12日 配当支払開始予定日 2025年12月11日
決算補足説明資料作成の有無 : 有
決算説明会開催の有無 : 有（機関投資家・アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

1. 2026年3月期第2四半期（中間期）の連結業績（2025年4月1日～2025年9月30日）

（1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		EBITDA		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％
2026年3月期中間期	15,784	—	3,507	—	2,718	—	2,615	—	2,544	—
2025年3月期中間期	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

（注）包括利益 2026年3月期中間期 2,544百万円（—％） 2025年3月期中間期 —百万円（—％）

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期中間期	62.35	57.83
2025年3月期中間期	—	—

（注）1. 2025年3月期中間期については、中間連結財務諸表を作成していないため、2025年3月期中間期の数値及び2026年3月期中間期の対前年中間期増減率は記載しておりません。

2. EBITDA＝営業利益＋減価償却費＋のれん償却費

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	％
2026年3月期中間期	43,908	17,839	40.6
2025年3月期	50,875	18,968	37.3

（参考）自己資本 2026年3月期中間期 17,833百万円 2025年3月期 18,962百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	0.00	—	90.00	90.00
2026年3月期	—	20.00			
2026年3月期（予想）			—	20.00	40.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年3月期の連結業績予想（2025年4月1日～2026年3月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		EBITDA		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	円 銭
通期	30,106	4.3	5,520	5.7	3,945	13.4	3,788	9.9	3,306	△54.7
										81.01

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更 : 無
新規 一社(社名) ー、除外 一社(社名) ー

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2026年3月期中間期	40,813,400株	2025年3月期	54,563,600株
② 期末自己株式数	2026年3月期中間期	ー株	2025年3月期	13,750,200株
③ 期中平均株式数(中間期)	2026年3月期中間期	40,813,400株	2025年3月期中間期	ー株

(注)当社は、2025年3月期中間期については中間連結財務諸表を作成していないため、期中平均株式数を記載しておりません。

※ 第2四半期(中間期)決算短信は公認会計士又は監査法人のレビュー対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、「1. 経営成績等の概況」の「(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当中間連結会計期間の経営成績の概況	2
(2) 当中間連結会計期間の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 中間連結貸借対照表	4
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	6
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等の注記)	9
(重要な後発事象)	9

1. 経営成績等の概況

当社は、前中間連結会計期間については中間連結財務諸表を作成していないため、前年同中間連結会計期間との比較分析は行っておりません。

（1）当中間連結会計期間の経営成績の概況

当中間連結会計期間（2025年4月1日～2025年9月30日）におけるわが国の経済は、雇用情勢・所得環境の改善の下、個人消費が緩やかに持ち直し、政府による各種政策の効果もあり、回復基調にあります。その一方で米関税引き上げや、継続する原材料の高騰による企業収益の悪化等、先行きが不透明な状況が続いております。

沖縄県内においては、人手不足や物価上昇に伴う各種コストの増加、並びに個人消費の節約志向等に懸念が生じておりますが、入域観光客数が国内観光客、外国人観光客ともに前年を上回る推移を見せ、観光産業を中心に県内景気は緩やかな拡大基調が続いております。

このような環境の中、当社は「沖縄から、人を、場を、世界を、笑顔に。」をミッションとし、企業価値向上へ邁進しております。魅力ある商品・体験を県民、観光客にお届けし、沖縄と共に持続的な成長を実現する「循環成長型ビジネスモデル」を掲げ、県民や観光客への県内での酒類提供やリゾートホテルでのサービス提供を基に、沖縄の魅力を価値として提供すると共に、県外・海外において沖縄を想起する施策を展開することで、ブランドロイヤリティを向上していくビジネスモデルを進めています。

当中間連結会計期間における経営成績は、売上高は15,784百万円、営業利益は2,718百万円、経常利益は2,615百万円となりました。親会社株主に帰属する中間純利益は、オリオンホテル那覇の譲渡に関連する特別利益1,053百万円の計上、及びそれに伴う法人税等の増加により、2,544百万円となりました。

当社グループでは、酒類清涼飲料事業及び観光・ホテル事業の2つの事業セグメントを展開しております。各事業セグメントの内容及び業績は以下のとおりです。

酒類清涼飲料事業

酒類清涼飲料事業は、ビール類を中心に展開しております。

当社が手掛ける「オリオン」は、沖縄に根差し共に成長を遂げた、沖縄を代表するビールブランドであり、「オリオン ザ・ドラフト」が主力商品となります。同商品は沖縄の大麦、水を使用し、温暖な気候に合わせたすっきりとした味わいが特徴です。また、県産のフルーツを豊富に使用したRTD（Ready to Drink：缶チューハイ等すぐに飲めるアルコール飲料）やフルーツワイン、沖縄の伝統的な蒸留酒である泡盛とその副産物を使用したもろみ酢等の製造・販売、並びに「オリオン」ブランドを活用したIPビジネス等、沖縄と共に成長する「循環成長型ビジネスモデル」を強化することにより、沖縄県内、県外、海外に向け、魅力ある商品・体験をお届けしています。

酒類清涼飲料事業においては、県内の圧倒的ポジション確立、県外の持続的な成長、海外エリアでの販売拡大に向け、商品開発と販売力強化を図ってきました。その結果、当中間連結会計期間における売上高は堅調な推移を見せ、12,406百万円となり、原材料高騰の価格転嫁による粗利率の改善、販売費及び一般管理費の抑制により、営業利益は2,101百万円となりました。

観光・ホテル事業

沖縄は豊富な観光資源とアジア諸国に近接する地理的優位性により、ハワイに匹敵する数の観光客が訪問する地域であり、観光客数・観光収入が増加傾向にあります。また、沖縄の自然を活かしたテーマパーク：ジャングルリア沖縄が2025年7月に開業したことにより、観光地としての魅力の更なる増大、観光客の滞在日数増加にも寄与する可能性を秘めています。

そのような中、観光・ホテル事業は、集客力の高い沖縄県北部のリゾートエリアに位置する「オリオン」の名を冠したオリオンホテルモトブ（本部町）を主軸に、創業の地である沖縄県北部を中心として、地域と連携し「オリオン」ブランドの経験価値向上と沖縄観光業の振興を図っております。

2025年度においては、ファミリー層をターゲットとした投資や、海外チャネルの強化によるインバウンドの取込みを積極的に行っております。その結果、ホテルの稼働率、客室単価の双方が前年同期を上回り、観光・ホテル事業の当中間連結会計期間における売上高は3,378百万円、営業利益は622百万円となりました。

（2）当中間連結会計期間の財政状態の概況

①資産、負債及び純資産の状況

当中間連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比較して6,967百万円減少し、43,908百万円となりました。主な要因は、配当金の支払等に伴う現金及び預金の減少3,137百万円、オリオンホテル那覇の資産売却等に伴う有形固定資産の減少4,112百万円になります。

負債につきましては、前連結会計年度末と比較して5,838百万円減少し、26,069百万円となりました。主な要因は、未払法人税等の減少2,227百万円、前期末自己株式取得に係る源泉所得税の支払に伴う預り金等の減少2,140百万円、資産除去債務の減少580百万円によるものです。

純資産につきましては、前連結会計年度末と比較して1,128百万円減少し、17,839百万円となりました。主な要因は、当中間連結会計期間における親会社株主に帰属する中間純利益による増加2,544百万円、及び前連結会計年度に属する配当金支払による減少3,673百万円によるものです。

②キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間末における現金及び現金同等物の中間期末残高は9,065百万円となりました。

当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当中間連結会計期間における営業活動による資金の減少は、主に税金等調整前中間純利益3,614百万円、オリオンホテル那覇売却による有形固定資産売却益△844百万円及び資産除去債務戻入益△208百万円、源泉所得税の支払に伴う預り金等の減少額△2,140百万円、法人税等の支払額△3,291百万円により、△2,618百万円となりました。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当中間連結会計期間における投資活動による資金の増加は、主に有形固定資産の売却による収入4,262百万円、定期預金の預入による支出△1,000百万円、有形固定資産の取得による支出△670百万円等により、2,554百万円となりました。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当中間連結会計期間における財務活動による資金の減少は、主に長期借入金の返済による支出△352百万円及び配当金の支払額△3,673百万円により、△4,074百万円となりました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2025年9月25日の「東京証券取引所プライム市場への上場に伴う当社決算情報等のお知らせ」で公表いたしました通期の連結業績予想から変更はありません。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当中間連結会計期間 (2025年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	13,203	10,065
売掛金	2,789	3,019
商品及び製品	1,198	1,312
原材料及び貯蔵品	741	679
その他	237	330
貸倒引当金	△3	△0
流動資産合計	18,166	15,407
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	33,357	26,275
減価償却累計額	△16,403	△12,191
建物及び構築物（純額）	16,953	14,084
機械装置及び運搬具	20,357	20,439
減価償却累計額	△17,859	△18,022
機械装置及び運搬具（純額）	2,497	2,416
土地	8,536	7,433
建設仮勘定	165	203
その他	2,345	2,153
減価償却累計額	△1,662	△1,568
その他（純額）	682	584
有形固定資産合計	28,835	24,722
無形固定資産		
のれん	138	125
その他	641	580
無形固定資産合計	779	705
投資その他の資産		
投資有価証券	2,633	2,636
その他	628	603
貸倒引当金	△168	△167
投資その他の資産合計	3,093	3,072
固定資産合計	32,708	28,500
資産合計	50,875	43,908

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (2025年 3 月 31 日)	当中間連結会計期間 (2025年 9 月 30 日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,121	1,049
1 年内返済予定の長期借入金	705	705
未払金	2,083	1,841
未払酒税	838	872
未払法人税等	3,318	1,090
賞与引当金	282	225
役員賞与引当金	29	9
その他	3,559	1,174
流動負債合計	11,938	6,969
固定負債		
長期借入金	16,361	16,008
繰延税金負債	1,507	1,508
役員退職慰労引当金	18	21
退職給付に係る負債	278	330
資産除去債務	662	81
長期預り金	951	961
その他	189	187
固定負債合計	19,969	19,099
負債合計	31,907	26,069
純資産の部		
株主資本		
資本金	378	378
資本剰余金	14,109	14,109
利益剰余金	15,475	3,346
自己株式	△11,000	—
株主資本合計	18,962	17,833
新株予約権	5	5
純資産合計	18,968	17,839
負債純資産合計	50,875	43,908

（2）中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

中間連結損益計算書

（単位：百万円）

	当中間連結会計期間 （自 2025年4月1日 至 2025年9月30日）
売上高	15,784
売上原価	7,281
売上総利益	8,503
販売費及び一般管理費	5,784
営業利益	2,718
営業外収益	
受取利息	3
受取配当金	66
持分法による投資利益	20
その他	59
営業外収益合計	150
営業外費用	
支払利息	131
その他	121
営業外費用合計	253
経常利益	2,615
特別利益	
固定資産売却益	844
資産除去債務戻入益	208
特別利益合計	1,053
特別損失	
固定資産除却損	10
支払負担金	27
特別退職金	17
特別損失合計	54
税金等調整前中間純利益	3,614
法人税、住民税及び事業税	1,053
法人税等調整額	16
法人税等合計	1,070
中間純利益	2,544
親会社株主に帰属する中間純利益	2,544

中間連結包括利益計算書

（単位：百万円）

当中間連結会計期間 （自 2025年 4 月 1 日 至 2025年 9 月30日）	
中間純利益	2,544
中間包括利益	2,544
（内訳）	
親会社株主に係る中間包括利益	2,544

（3）中間連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

当中間連結会計期間 （自 2025年4月1日 至 2025年9月30日）	
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前中間純利益	3,614
減価償却費	776
のれん償却額	13
貸倒引当金の増減額（△は減少）	△2
受取利息及び受取配当金	△70
支払利息	131
持分法による投資損益（△は益）	△20
資産除去債務戻入益	△208
固定資産除却損	10
売上債権の増減額（△は増加）	△230
棚卸資産の増減額（△は増加）	△52
仕入債務の増減額（△は減少）	△71
未払酒税の増減額（△は減少）	34
長期預り金の増減額（△は減少）	9
固定資産売却損益（△は益）	△844
賞与引当金の増減額（△は減少）	△57
役員賞与引当金の増減額（△は減少）	△19
役員退職慰労引当金の増減額（△は減少）	2
退職給付に係る負債の増減額（△は減少）	51
未払金の増減額（△は減少）	60
その他	△2,433
小計	693
利息及び配当金の受取額	87
利息の支払額	△107
法人税等の支払額	△3,291
営業活動によるキャッシュ・フロー	△2,618
投資活動によるキャッシュ・フロー	
定期預金の預入による支出	△1,000
有形固定資産の取得による支出	△670
有形固定資産の売却による収入	4,262
有形固定資産の除却による支出	△3
無形固定資産の取得による支出	△37
その他	3
投資活動によるキャッシュ・フロー	2,554
財務活動によるキャッシュ・フロー	
長期借入金の返済による支出	△352
リース債務の返済による支出	△48
新株予約権の取得による支出	△0
配当金の支払額	△3,673
財務活動によるキャッシュ・フロー	△4,074
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△4,137
現金及び現金同等物の期首残高	13,203
現金及び現金同等物の中間期末残高	9,065

（４）中間連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

当社は、2025年6月20日開催の取締役会決議に基づき、自己株式13,750,200株の消却を行いました。この結果、当中間連結会計期間において利益剰余金が11,000百万円、自己株式が11,000百万円それぞれ減少し、当中間連結会計期間末において利益剰余金が3,346百万円となり、自己株式の残高はありません。

（セグメント情報等の注記）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

I 当中間連結会計期間（自 2025年4月1日 至 2025年9月30日）

（単位：百万円）

	報告セグメント		合計	調整額 (注)1	中間連結 損益計算書 計上額 (注)2
	酒類清涼飲料 事業	観光・ホテル 事業			
売上高					
（１）外部顧客への売上高	12,406	3,378	15,784	—	15,784
（２）セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	12,406	3,378	15,784	—	15,784
セグメント利益	2,101	622	2,723	△5	2,718

（注）１ セグメント利益の調整額5百万円には、減価償却費の調整額△5百万円が含まれております。

２ セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

（重要な後発事象）

（連結子会社の解散及び清算）

当社は、2025年7月18日開催の取締役会決議に基づき、当社の連結子会社であるオリオン沖映合同会社を2025年7月18日に解散し、2025年10月17日に清算いたしました。

１．解散及び清算の理由

当社グループの事業の見直しに伴い、同社所有の土地建物を売却し事業は終了していることから、同社を解散及び清算いたしました。

２．解散及び清算した子会社等の概要

- | | |
|----------|------------------|
| （１）名称 | オリオン沖映合同会社 |
| （２）所在地 | 沖縄県豊見城市字豊崎1-411 |
| （３）事業内容 | ホテル・保養施設・娯楽施設の運営 |
| （４）資本金 | 10百万円 |
| （５）設立年月日 | 2017年4月 |
| （６）出資比率 | 当社100% |

３．解散及び清算の時期

- | | |
|-------|-------------|
| （１）解散 | 2025年7月18日 |
| （２）清算 | 2025年10月17日 |

４．当該解散及び清算による連結損益への影響

2026年3月期の連結業績に与える影響は軽微であります。